



<N0189>

ヤマノイモ (山芋)

葉にはクロロフィル（葉緑素）に隠れて、もともとカロテノイドという黄色の色素がある。寒くなると、クロロフィルが分解し緑色が薄くなり、カロテノイドの黄色が目立つようになる。「紅葉」ではなく「黄葉（こうよう）」なのだ。

ヤマノイモは文字通り山に自生し、地中に長い芋をつくることから名前となった。芋は地下深くにまっすぐに伸び、1mを超えることもある。別名自然薯（じねんじょ）とも呼ばれ、食味や食感は山に分け入っても掘り上げるのに値する野趣豊かな形の美味しい芋である。ヤマノイモ科のつる性多年草。

よく似たものにナガイモがあるがこれは栽培植物で別な種類である。長い形をした芋なので、ヤマノイモと混同されることがある。





<N0188>

チカラシバ
(力芝)

日当たりのよい路傍や踏み固められた畑道などに群生する。固い土に根を張るだけではなく、茎も葉も強靱で力いっぱい引っ張っても簡単には引き抜けず、ち切れることもない。引っ張って力比べをしたことが和名の由来である。

チカラシバの花穂

は試験管ブラシのような円柱状で、長い穎（のげ）の付いた小穂が並んでいる。

筆者は子どもの時、チカラシバの隣同士の株をたぐり寄せ、葉と葉を結わえて歩く人が足を引っかけるようにしたり、穎の付いた穂を友達のズボンのすそに気づかれないように入れ、歩くとズボンの中を上がって行って困らせる遊びなどを面白がってやった。意地悪な遊びをしたものである。イネ科の多年草。

